

9月は、「世界アルツハイマー月間」、  
9月21日は、「世界アルツハイマーデー」です

認知症の理解を広げましょう

9月は世界アルツハイマー

月間として、世界各国で認知症への偏見をなくし、理解を広げるための活動が実施されます。日本では「公益社団法人認知症の人と家族の会」が中心となり、関係機関と連携し全国で認知症に関する啓発活動が行われます。

認知症は誰もがなりうる

「脳の病気」

認知症は、さまざまな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりするために起こる「脳の病気」です。高齢者だけの病気ではありませんが、85歳以上では2人に1人その症状があると言われています。長寿社会となり、

り、認知症は誰もがなりうるものと考え、一人ひとりが備えをしていくことが大切です。

認知症と「ともに生きる」

時代

日本では、令和元年に「認知症施策推進大綱」が閣議決定されました。令和7年までの取組方針で「認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って自分らしく暮らし続けられる社会を目指し、

「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進する」と記されています。「予防」とは、「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにする」という意味です。「共生」とは、認知症があっても認知症とともに生きること、また認知症のある人もない人もともに生きること示しています。

< 普段実施している事業 >

○物忘れ相談

毎月5日（5日が祝日等であれば翌日）午前9時～11時30分を定例とし物忘れ相談を行っています。

○介護者家族の集い

毎月第2水曜日午後1時30分～3時、ちえの森ちづ図書館で開催。「認知症の人と家族の会鳥取県支部」代表吉野立氏を迎え、家族の思いを語り合ったり、介護についての助言等をいただいたりしています。

○オレンジカフェ

住民主体として、毎月第4月曜日、午前11時30分～午後1時、ほのぼのひだまりホールで開催。山形第一地区公民館では、毎週第3木曜日午前10時～正午に開催。

○認知症サポーター養成講座

認知症について正しく理解し、認知症のある人や家族に対して温かい目で見守る応援者となっていただくための講座です。依頼にあわせて出張講座を行います。

気軽に相談を

認知症は身近なものとなってきましたが、それでも自分や家族が「認知症かな?」と思った時には不安になり、どうしたらよいか戸惑ってしまうと思います。相談は、智頭町地域包括支援センターへ連絡ください。また、上記の事業も気軽に利用ください。



智頭町認知症  
マスコットキャラクター  
「キラリ」と「サラサ」